

第10回日展

第1科（日本画） 特選授賞理由

題名
いのち赫く
作者名
池田睦月
授賞理由
黒地に赤が観る者に鮮烈な印象を残す。背景を省略し、鶏頭を写実的に描写する点に琳派以来の日本画の伝統を感じる。花の生命感と枯れかけの葉の持つ死のイメージは、そのまま赤と黒の対比にもつながる。

題名
過ぎゆく夏
作者名
岡本徳子
授賞理由
騒ぐ風に運ばれて匂う花の香に、観る者の死生観を問う様に感じられる作品である。

題名
蓮
作者名
小木曾 登
授賞理由
葉を白に見て枯葉を印象的に配した独特の構成である。特に白い葉の色に深みがあり美しく発色している。淡い色調が葉の重なりを感じさせ、枯葉の色や水の色も鮮やかで神秘的な輝きを見せる。蓮を通し独自の世界を展開している。

題名
迎へびと
作者名
川島めぐみ
授賞理由
室内風景の自画像だろうか、迷いながら色を重ね剥がされた塗り方は日々の悩みや葛藤、心の内面を表し、しっかりと握った四つ葉のクローバーの花束に将来の希望を託した初々しい表現が魅力である。

題名
古梅香香（飛鳥）
作者名
久保嶺爾
授賞理由
作者は、風景画家として大和路に出かけ画材を求めて写生に行き、春の香り漂う風景と対峙し、日本の原風景を制作した作品である。長年の努力が実を結んだ秀作である。

題名
観想
作者名
鈴木一正
授賞理由
チンパンジーが小さな花を愛でる穏やかな画面です。その表情や毛並み、手足の指先の仕草に至るまで作家の厳しいまなざしが、この作品に生命の輝きをもたらしています。

題名
舟屋
作者名
竹内昌二
授賞理由
黒一色で描かれたかに見える舟屋は、仔細に観ると重厚な絵肌と複雑な色彩で繊細に描写されており、そのことが銀箔の海をより印象深い広がりとして見せている。高い描写力と大胆な構成力を感じさせる力作である。

題名
天体観測
作者名
福田季生
授賞理由
ノスタルジックな作風の中に、しっかりと今の時代が感じ取れる、若々しい作品である。確かな描写力と画面を印象付ける張りのある色彩には、観るものをハッとさせる艶やかさがある。

題名
蓮
作者名
三上友子
授賞理由
蓮と蓮池の印象を直感で感じた色調で描き、刻々と変化するありさまを、素直に豊かに捉えようとしている。生命の強さ、存在の美しさとしっかりと向き合い、作者自身の気持ちを大切に描いた力作である。

題名
夜の隙間
作者名
三谷佳典
授賞理由
女性の存在を思索的にもとめて、明快な色彩や、大胆な構図で巧みに描かれています。背景の在り方が、独自に表現された優れた作品になっています。